

特許協力条約

PCT

特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第二章）

(法第 12 条、法施行規則第 56 条)
〔PCT36 条及び PCT 規則 70〕



出願人又は代理人 の書類記号 H2322-01	今後の手続きについては、様式PCT／IPEA／416を参照すること。	
国際出願番号 PCT／JP2005／002295	国際出願日 (日.月.年) 16. 02. 2005	優先日 (日.月.年) 07. 04. 2004
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. H01M8/04 (2006.01)		
出願人 (氏名又は名称) 松下電器産業株式会社		

国際予備審査の請求書を受理した日 24.06.2005	国際予備審査報告を作成した日 27.02.2006
名称及びあて先 日本国特許庁 (I P E A / J P) 郵便番号 100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 小川 武 電話番号 03-3581-1101 内線 3435 4K 9270

第1欄 報告の基礎

1. 言語に関し、この予備審査報告は以下のものを基礎とした。

出願時の言語による国際出願

出願時の言語から次の目的のための言語である _____ 語に翻訳された、この国際出願の翻訳文

國際調査 (PCT規則12.3(a)及び23.1(b))

國際公開 (PCT規則12.4(a))

國際予備審査 (PCT規則55.2(a)又は55.3(a))

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。（法第6条（PCT14条）の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。）

出願時の国際出願書類

明細書

第1-17 ページ、出願時に提出されたもの
 第 _____ ページ*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

請求の範囲

第1-4, 7 項、出願時に提出されたもの
 第 _____ 項*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの
 第5, 6, 8 項*、24.06.2005 付けで国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ 項*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

図面

第1-12 ページ/図、出願時に提出されたもの
 第 _____ ページ/図*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ/図*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. 補正により、下記の書類が削除された。

明細書 第 _____ ページ
 請求の範囲 第 _____ 項
 図面 第 _____ ページ/図
 配列表（具体的に記載すること） _____
 配列表に関するテーブル（具体的に記載すること） _____

4. この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。（PCT規則70.2(c)）

明細書 第 _____ ページ
 請求の範囲 第 _____ 項
 図面 第 _____ ページ/図
 配列表（具体的に記載すること） _____
 配列表に関するテーブル（具体的に記載すること） _____

* 4. に該当する場合、その用紙に "superseded" と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条（PCT35条(2)）に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性（N） 請求の範囲 1-4, 7 有
 請求の範囲 5, 6, 8 無

進歩性（I S） 請求の範囲 1-4, 7 有
 請求の範囲 5, 6, 8 無

産業上の利用可能性（I A） 請求の範囲 1-8 有
 請求の範囲 無

2. 文献及び説明（PCT規則70.7）

文献 1 JP 2002-270210 A (シャープ株式会社) 2002.09.20

文献 2 JP 2004-93409 A (カシオ計算機株式会社) 2004.03.25

文献 3 JP 2003-331879 A (セイコーホームズ株式会社) 2003.11.21

文献 4 EP 1313160 A1 (SFC SMART FUEL CELL AG) 2003.05.21

請求の範囲 5, 6, 8 に係る発明

請求の範囲 5, 6, 8 に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1から新規性を有さない。請求の範囲 5, 6, 8 に記載された複数の弁及び駆動部を有する燃料電池用燃料カートリッジは、文献1の指摘箇所に開示されている。なお、複数の弁を有するカートリッジに内在している動作機構を確認的に規定したことに基づく実質的差異はない。

請求の範囲 1-4, 7 に係る発明

請求の範囲 1-4, 7 に係る発明は、国際調査報告で引用された文献に対して新規性及び進歩性を有する。文献には、開閉する扉と、前記扉が開かないようにロックするロック機構とを含む燃料供給口保護機構が設けられている燃料電池用燃料カートリッジが記載されておらず、かつ当業者といえども容易に想到し得ないものである。